

あいりちゃん事件22日で3年

'08/11/21



広島市安芸区で2005年11月、矢野西小1年木下あいりちゃん = 当時(7) = が下校中に殺害された事件から、22日で丸3年を迎える。父建一さん(41)は、事件から約3年ぶりに戻ってきた遺品60点を手に、「とても早かった。あいりがまだ生きている感じがする」。まな娘を失ってからの日々を振り返った。

あいりちゃんが事件当時に身に着けていた通学帽や教科書、ノート、文具、お守り...。公判で必要になった場合に備え保管していた広島高検が、7月末の控訴審結審後、遺族に返却した。「11月22日火よう日」から先は空白のままの連絡帳。「1 どうとく 2 こくご」と当日の時間割や宿題が力強い字で記され、全部正しく書けたと、担任教諭が赤ペンで花丸を付けている。

県外から引っ越してきたため、小さな娘が矢野西小に通ったのは3カ月足らず。真新しいベージュ色の通学帽を手にし、「家族4人で制服を買いに行ったら、2歳下の弟が暴れてね...」。「教えた通りに、公園で遊んでいるときに知らない人が来たら、弟を連れて帰ってきていた。気の利く優しい子だった」。唯一帰ってこなかった「あの日」を悲しんだ。

22日は、遺骨がある実家の熊本県へ墓参りする。「家族はいつまでも4人。遺品は大切に手元に置いておきたい」と話した。

【写真説明】連絡帳(手前)、手形が残る自由帳、通学帽など木下あいりちゃんの遺品